

## はじめに



川崎市では、平成5年3月に一般廃棄物処理基本計画を策定し、ごみの減量、再資源化への取組を市民・事業者の皆さんと一体となって推進してまいりました。

その後10年以上が経過し、これまでのリサイクルを中心とした流れから、3R（リデュース〔発生・排出抑制〕・リユース〔再使用〕・リサイクル〔再生利用〕）を基本とした取組への転換が求められました。

こうしたことから、これまでの計画の見直しを行い、平成17年4月に、「地球環境にやさしい持続可能な循環型のまちを目指して」を基本理念に、市民・事業者・行政の環境意識の向上、ごみの発生抑制とリサイクルの推進、事業の効率的な運営を施策の基本として、「川崎市一般廃棄物処理基本計画（かわさきチャレンジ・3R）」を策定し、3Rを基調とした取組を進めてまいりました。

これらの取組や、環境問題への意識の高まりから、ごみの減量やリサイクルが、日常生活や事業活動の中に定着しつつあり、市民1人1日当たりのごみ排出量や焼却量が減少する一方、資源化量が増加する傾向にあります。しかし、大規模な市街地再開発などにより、予想を上回るペースで人口が増加しておりますことから、今後、ごみ排出量の増加も懸念されます。

また、現計画の策定から3年が経過し、世界的に喫緊の課題となっている地球温暖化への対応や、国における「循環型社会形成推進基本計画」等関係諸制度の見直しなど、一般廃棄物処理事業を取り巻く環境が大きく変化しています。

さらに、3Rを基調とした循環型社会の構築と低炭素社会の実現には、市民・事業者・行政による協働した取組が一層重要となってまいります。

このような状況に的確に対応し、着実な取組を進めるため、この度、具体的施策や目標を定めた一般廃棄物処理基本計画における行動計画を改定し、今後5年間に重点的に取り組むべき施策を明らかにするとともに、カーボン・チャレンジ川崎エコ戦略（CCかわさき）に基づく地球温暖化対策に関する取組をも加えたところでございます。

この行動計画を実効あるものとするためには、何よりも市民一人ひとりが資源の大切さを認識するとともに、市民や事業者の皆さんが主役となった取組の実践が重要でございますので、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

2009年4月

川崎市長

阿部孝夫